



Nishikie Kindergarten

Phone 63-2038 FAX 63-2034



籾蒔き・
 田植え
 稲の花
 稲穂が垂れ

実りのあるものにするために

5月に籾蒔きし、6月に代かきと田植えをした稲も写真のように大きく成長し、頭を垂れる稲穂になってきました。

子どもたちもそれぞれ成長の度合いは違っても確実に伸びているのです。

子どもたちは、遊びの中で様々な体験を通して成功や失敗を繰り返しながら、自分なりに納得のいく行動をとってきています。

そんな中で、つい自分と友達を比べて一喜一憂している面も見られます。人と比べることで奮起して、新しいことに挑戦するなど、行動量が増えているのであれば問題はありません。

でも、多くの場合、人と比べることで、嫉妬、焦り、劣等感、自信喪失、慢心、優越感などが湧いて、結果的に行動に繋がらないことが多いのです。

問題なのは「人と比べること」ではなく、それによって感情がネガティブになり、「行動が止まってしまう」ことです。

どうしたら他人と比べて一喜一憂せずにするのか。友だちと比べるのではなく、過去の自分と比べるようにすることです。過去の自分と比較することで、自分の成長に焦点を当てることができます。

物差しは、ものの長さを測る道具ですが、人は誰でも自分の心の物差しをもっています。例えば、「できた・できない」の大きなメモリでなく、「できた・ほとんどできた・まあまあできた・そこそこできた・ちょっとできた・できない」などできるかぎり小さくすることで、小さな変化、成果、結果に気づくようになるのです。大人の声かけの大事な点でもあります。

収穫と種まき



いよいよ運動会



いよいよ運動会

転んで見えるもの

運動会に向けて、かけっこやリレー、親子種目など練習しているときに、転んでしまう子どもが見られます。みなさんも子どもの頃、運動会などで転んだ経験があるかと思います。転んだ時の景色は、その時、その人の目にしか映らない。

こんなこと書いていたら、ふと思い出したことがあります。

レスリング界で「霊長類最強女子」と称えられた吉田沙保里選手は、引退会見時に大変興味深いコメントを残しました。

「一番印象に残っているメダルは何ですか？」の質問に、「2番目の表彰台に上がることになったリオ・オリンピックの銀メダルです。」と。理由を尋ねられた彼女は、「負けた人はこういう気持ちなんだと身をもって分かったし、こうやって競い合う仲間がいたからこそ自分も頑張っただけだと知ることができました。負けて得たものが私自身を大きく成長させてくれたと思うからです。」

さあ！マイナスをプラスに変換できる子どもへ！

さわやかな秋空の下、あちこちで運動会が行われるこの時期。運動会というと、人様々に思い出があるでしょう。運動が得意だった人には懐かしく思い出されるでしょうが、走るのが苦手だった人にとっては苦痛以外の何ものでもなく、あんなふうに速く走れたらどんなにいいだろうと、足の速い人を羨んでいた記憶がよみがえってくるのかもしれない。しかし、考えてみれば、速く走れなかったからこそ得たものもあるのではないのでしょうか。たとえば今、運動が苦手な子どもの気持ちにぴったりと寄り添って助言をすることもできるはずで、それは足が速かった人には難しいことです。だから他人の才能に心奪われ、自分がないからと卑屈になる必要はないむしろ、その人の知らないことを知っている、その人が見えない世界が見えることに自信をもてばいい。劣等感や弱みを抱えたものでなければ見えないもの、感じられないものがあり、それを大切にするところに、人間としての深みが増していくのではないのでしょうか。この点からも、実りの秋といえるのではないのでしょうか!? 様々なことが充実する2学期！まさに充実期ですね(^^)